

# 居住地における協力行動の促進－歴史資産の熟知度と地域コミットメントの効果－\*

## Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community. \*

引地博之\*\*・大淵憲一\*\*\*・青木俊明\*\*\*\*

By Hiroyuki HIKICHI\*\*・Ken-ichi OHBUCHI\*\*\*・Toshiaki AOKI\*\*\*\*

### 1. はじめに

居住環境を維持するためには、地域清掃等の地域活動に対して住民の参加を促すことが重要である。しかし、このような活動に参加する際には、私的時間の提供などのコストが発生する。すなわち、参加には社会的ジレンマが伴うことから、活動に対して彼らの理解や協力は容易に得られない。このような中、地域の防災活動やリサイクル活動に積極的に参加する住民は、地域に強いコミットメントを有することから<sup>1)</sup>、地域コミットメントが協力を促す要因になりうる<sup>2)</sup>として関心を集めている。

これまで、医療施設の整備水準<sup>3)</sup>や地域内の対人関係<sup>4)</sup>等と地域コミットメントの関連が報告されているが、これらの多くは地域環境がコミットメントを強化する心理機構を十分に示していない。このような中、引地ら<sup>4)</sup>は、住民に高く評価される地域環境が、その地域の一員であることを肯定的に認知させるために、地域コミットメントが強化されることを示した。しかし、地域環境の1要素である歴史資産は、それに対する評価が高くなくとも、過去住民との共通性を感じさせることで、地域コミットメントを強化することが示唆されている<sup>5)</sup>。このことから、歴史資産に対する住民の評価だけでなく、過去住民に対する共通性の感覚も地域コミットメントの形成要因になりうる<sup>6)</sup>ことが推測されるが、その心理機構は十分に検討されていない。こうした地域コミットメントの形成機構や、それによって促される協力的態度形成の仕組みを明らかにすることは、協力促進策の改善に貢献するという点で意義がある<sup>7)</sup>と考える。

以上より、本研究の目的は、人々の歴史資産に対する認知が地域コミットメントおよび協力行動を促す心理機構について検討することである。なお、地域コミット

メントは、地域アイデンティティ<sup>8)</sup>や地域に対する愛着<sup>9)</sup>とも表現されるが、これらの概念は住民の地域に対する情緒的絆として機能し<sup>7)</sup>、地域の一員としての自覚<sup>6)</sup>や長期の居住願望<sup>9)</sup>を強める。本稿では、こうした地域に対する情緒的絆を地域コミットメントとする。また、歴史資産は、歴史的建築等の建造物だけでなく、説話等の無形の資産も含めることとする。

### 2. 仮説

#### (1) 研究の理論的枠組み

Tajfel & Turner<sup>9)</sup>によれば、「自分はある集団に所属している」という認識が、自己概念の一部を形成する。このような自己概念の側面は「社会的アイデンティティ」と呼ばれている。従って、所属集団に関する社会的アイデンティティが強固な構成員ほど、「自分はこの集団の一員である」という意識が強いとと言える。ここで、居住地を「所属集団」とすれば、地域に関する社会的アイデンティティの強固な住民ほど、地域集団の一員としての自覚<sup>6)</sup>、すなわち、地域コミットメントが強いと考えられる。このことから、社会的アイデンティティ研究の知見に基づき地域コミットメント形成の心理機構を検討可能だと考えられる。

Tajfel & Turner<sup>9)</sup>の社会的アイデンティティ理論によれば、所属集団が他集団以上に優れていると認識することで、肯定的な自己概念を維持する欲求が満たされるため、その集団に関する社会的アイデンティティが強化される。例えば、社会的評価の高い集団に属している個人は、その集団の構成員である自分も有能な人物であると認知できるために強い集団コミットメントを形成する。従って、地域が優れた歴史資産を保有していることで、地域の社会的価値も高く認知される場合には、地域コミットメントが強化されることが予測される。

次に、自己カテゴリー化理論<sup>10)</sup>によれば、所属集団の他の構成員との間に共通性が認知されることで、集団に対するコミットメントが強化される。例えば、スポーツ観戦者たちは、「自分と同じように、周りの人もチームカラーのシャツを着ている」「周りの人と一緒に同じ

\*キーワード: 意識調査分析、地域計画、イメージ分析

\*\*学生会員、工修、東北大学大学院文学研究科  
(宮城県仙台市青葉区川内27-1、

TEL: 022-675-6048、E-mail: hikichi@sal.ac.jp)

\*\*\*非会員、文博、東北大学大学院文学研究科

\*\*\*\*正会員、情博、東北工業大学

(宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1、

TEL: 022-305-3507、E-mail: shunmei@tohtech.ac.jp)

チームを応援している」という外見や行動の共通性から、自分が所属する集団（サポーター）の存在が強く意識され、その結果、集団コミットメントが強くなる。このことから、地域の歴史資産が他の住民に対する共通性感覚の生起を促す場合には、地域コミットメントが強化されると考えられる。

また、集団に強いコミットメントを有する構成員は、集団に関する社会的アイデンティティが強いために、その集団の規範を遵守することや、集団の価値を維持することに高い関心を持つ<sup>11)</sup>。そのため、地域コミットメントの強い住民は地域の規則を守ることや、地域の価値を維持することに協力的態度を有すると予測される。

以上より、社会的アイデンティティ理論と自己カテゴリー化理論を用いて、歴史資産に対する認識の地域コミットメントと協力行動の促進機構を検討する。

## (2) 研究仮説

地域住民は歴史的な場所や建造物において行事や祭りに参加するが、過去住民と同じ場所で同じ行為に従事しているという気持ちから、彼らとの間に共通性の感覚を持つ<sup>9)</sup>。その際、歴史的経緯や行事について多くの知識を持つ住民ほど、その感覚が強く生起すると考えられるので、我々は、地域の歴史資産について熟知度の高い住民ほど、過去住民との共通性感覚を強く持つであろうと予測した（仮説1）。

Hogg<sup>10)</sup>によれば、人は所属集団の構成員との共通性を認知することで、所属集団の存在が強く意識され、集団コミットメントが強化される。過去の住民は通時的な自集団の構成員であることから、彼らとの間に共通性を感じる住民ほど、現代の地域集団に対するコミットメントが強いと考えられる（仮説2）。

地域の歴史資産は、観光資源として他地域の人々の関心を集めることから、住民はこれらが地域の威信を示すと認識している<sup>12)</sup>。特に、歴史資産の見所や魅力に関する知識の多い住民ほど、そうした社会的価値をよく理解していると考えられる。そこで我々は、歴史資産の熟知度が高い住民ほど、その社会的価値に対する評価が高いと予測した（仮説3）。

社会的アイデンティティ理論によれば<sup>9)</sup>、自集団が他集団以上に優れていると認知されることで、構成員の自己高揚動機が満たされ、その結果、集団へのコミットメントが強化される。ここで、他の地域の人々からも評判の高い歴史資産は、地域の知名度を高めうることから、歴史資産に付与された社会的価値を高く評価する住民ほど、地域コミットメントが強いと予測した（仮説4）。

内集団に対するコミットメントの強い構成員は、個人的な利害と同等以上に、集団の規範や価値を守ることがを重視する<sup>11)</sup>。清掃活動などの地域活動への参加は、地

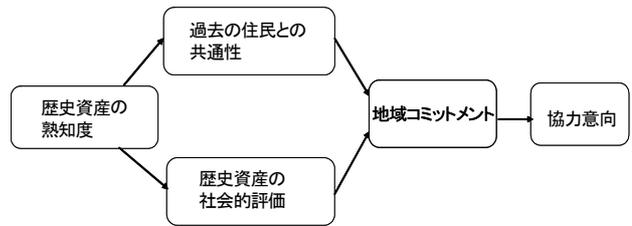


図-1 本研究の理論モデル

域自治会の要請や規則の遵守だと言えるし、また地域価値の維持にも貢献すると考えられる。このことから、我々は地域コミットメントの強い住民ほど、地域活動への協力意向が強いと予測した（仮説5）。

歴史資産の多く残る地域では、その少ない地域に比べて、歴史的建造物や歴史的イベントに関わる機会が多いと考えられる。こうした地域を比較することによって、我々は、歴史資産の多い地域では、それが少ない地域に比べて、住民の歴史資産に対する熟知度、過去住民との共通性感覚、歴史資産の社会的価値に対する評価などが高く、そのため、地域コミットメントや地域活動に対する協力意向も強いと予測した（仮説6）。これらの仮説に基づいた理論モデルを図-1に示す。

## 3. 調査概要

### (1) 調査方法

上記仮説を検証するために、郵送法による質問紙調査を行った。調査対象者は歴史資産の多い地域（歴史資産地域：京都市東山区、京都市左京区、神奈川県鎌倉市、福島県会津若松市）とそれが少ない地域（新興住宅地域：兵庫県三田市、神奈川県横浜市緑区、宮城県仙台市太白区）の選挙人名簿あるいは住民基本台帳から、それぞれ1200名ずつ選出した。住民基本台帳から回答者を抽出する際には、20歳以上を対象とした。また、一般的に歴史的建造物の多い地域にも、新しい住宅団地があるし、その一方で、大きな新興住宅団地が開発されている地域にも歴史的建造物の残る地区が存在する。そのため、地域全域を対象として回答者を無作為に選出すると、回答者の居住地に関する特性が一様でなくなる可能性がある。こうした問題に対応するために、事前に対象地域の歴史的建造物や新興住宅地を調べ、これらが混在していない地区から回答者を無作為に選出した。有効回答者数は、歴史資産地域では404名（男性：181名、女性：220名、不明：3名）で、回収率は33.7%であった。彼らの平均年齢は54.7歳（SD = 15.37）で、平均居住年数は31.6年（SD = 20.63）であった。また、新興住宅地域では441名（男性：198名、女性：243名、不明：なし）で、回収率は36.8%であった。この地域の回答者は平均年齢が52.5歳（SD = 15.65）で、平均居住年数は20.7年（SD = 13.71）であった。

表一 質問項目一覧

概念名	項目	歴史資産地域		新興住宅地域	
		平均値(SD)	$\alpha$ 係数	平均値(SD)	$\alpha$ 係数
熟知度	a 地域の歴史的な成り立ちをよく知っている。	3.73(1.14)		2.81(1.07)	
	b 歴史ある建造物や、それらが創り出す魅力的な雰囲気のある場所を知っている。	4.33(1.09)	.83	3.27(1.17)	.81
	c 歴史資産が置かれ、景観の見所となっている場所や、祭りなど地域の人に親しまれているイベントを知っている。	4.37(1.00)		3.39(1.05)	
共通性	a 地域の史跡を散策するときは、当時の住民もここを歩いていたんだと思う。	4.13(1.08)		3.30(1.11)	
	b 歴史的イベントや儀式に参加すると、昔の住民たちも同じことをしていたんだと感じる。	3.82(1.04)	.82	3.51(1.02)	.81
	c 地域の歴史的風景を眺めているときに、昔の人も自分と同じ景色を見たのだろうと思う。	4.07(1.00)		3.25(0.99)	
社会的価値	a この地域には、他には見られない優れた歴史的資産がある。	4.60(1.19)		3.26(1.13)	
	b この地域の歴史的資産は、観光資源としても優れたものだ。	4.72(1.13)	.87	3.40(1.14)	.84
	c 地域に残る歴史的資産は、この地域の知名度を高めるものだ。	4.62(1.07)		3.85(1.03)	
地域コミットメント	a この地域の一員であるという意識が強い。	3.95(1.17)		3.41(1.06)	
	b この地域に対して一体感を感じている。	3.59(1.03)	.90	3.17(1.02)	.90
	c この地域の住民であることが誇らしい。	3.96(1.15)		3.33(1.03)	
	d 私にとって、この住民であることは価値があることだ。	3.97(1.19)		3.54(1.02)	
協力意向	a 次の世代のために、居住地の景観や治安を保つ活動に協力しても良い。	4.22(0.95)		3.98(0.87)	
	b 地域を担う次の世代に居住環境を良い状態で受け継ぐことができるよう、それを維持や改善する活動に協力しても良い。	4.20(0.87)	.84	4.15(0.78)	.85
	c 地域の環境や伝統を子孫に残すために、自分がそれらを維持する活動に協力しても良い。	4.16(0.95)		3.93(0.88)	

調査票では、表一に示す項目が自分の意見にどのくらい当てはまるかを尋ねた。質問紙の冒頭では、「居住地」を居住している市、あるいは区と考えて回答するように指示した。全ての質問項目は6点尺度（1：全くそう思わない～6：強くそう思う）を用いて尋ねられた。

## (2) 質問項目

地域の歴史資産は、景観の見所になるだけでなく、過去の住民の活動や地名の由来など、地域の歴史的な成り立ちを住民に伝える機能を持つ<sup>13)</sup>。そのため、歴史資産に対する熟知度の評定項目では、歴史資産が置かれ、景観の見所とされている場所や地域の歴史的な成り立ちに関する知識を十分に持っているかを尋ねた。

自己カテゴリー化理論<sup>10)</sup>に従えば、集団構成員との行動の共通性が集団コミットメントの規定因となる。従って、過去住民に対する共通性感覚の尺度では、歴史的イベントに参加した際や、史跡の周辺を散策した際に、その場所で過去住民も自分たちと同じ行動を取っていたと感じるかを尋ねる項目を設定した。

次に、構成員は所属集団が他集団以上に優れた社会的価値を持つと認知する場合に、集団コミットメントを強化する<sup>9)</sup>。このことから、歴史資産に対する社会的価

値の評定項目は、居住地の歴史資産が他の地域のもの比べて優れており、また居住地の知名度を高めるものだと認識しているかを尋ねた。

所属集団に対するコミットメントは「集団の一員としての自覚」と「集団構成員としての誇り」から構成されることから<sup>14)</sup>、地域コミットメントの尺度は地域住民としての自覚や地域住民であることに対する誇りを測定する項目を設定した。

地域住民によって行われる防犯活動や清掃活動は、地域環境を維持し、次の世代に伝えるために重要な役割を果たす。このことから、協力意向の評定項目は、次世代に現在の居住環境を伝えるために、地域活動に協力する意向を測定するものとした。

## 4. 結果

### (1) 住民の歴史資産や協力的行動に対する認識

住民の歴史資産に対する認識や地域コミットメント、地域活動に対する協力意向の現状を把握するために、地域ごとに各項目の平均評定値を求めた。表一に示されているように、歴史資産の熟知度に対する評定値は、歴史資産地域において全ての項目が6点尺度の midpoint(3.5)を

上回っているのに対して、新興住宅地域では、全ての評定値が中点を下回った。従って、日頃、歴史的イベントに参加し、また史跡周辺を散策する機会の多い地域の住民は、そうした歴史資産の少ない地域の住民に比べて、地域の歴史的成り立ちや魅力的な雰囲気を持つ場所に関する知識が多いことがうかがえる。

次に、過去住民に対する共通性感覚の項目も、歴史資産地域において全ての評定値が中点を上回った。一方、新興住宅地域の評定値は、1つの項目のみが中点を上回ったが、他の項目はそれ以下であった。従って、歴史資産の多い地域の住民は、過去住民に対する共通性の感覚も強い傾向にあると考えられる。

地域の歴史資産の社会的価値に対する評定値は、歴史資産地域において全ての項目が4.5を上回ったが、新興住宅地域では1項目を除いて中点に達しなかった。歴史資産の多い地域では、日頃、歴史資産を観光するために他地域から多くの人々が訪れ、また、そうした光景がマスコミ等でよく紹介されることから、その社会的価値が高く評価されていることが推測される。

地域コミットメントは、歴史資産地域において、3.5から4.0付近までの評定値を示したが、新興住宅地域では、1つの項目を除いて中点を下回った。従って、歴史資産の多い地域で生活する住民は、それが少ない地域の住民に比べて、地域の一員としての自覚が強く、また地域住民であることに誇りを強く感じていることが窺える。

地域活動に対する協力意向の評定値は、歴史資産地域において全ての項目が4.2付近に達したが、新興住宅地域では4.0付近に留まった。このことから、歴史資産地域の住民は、新興住宅地域の住民に比べて、地域活動により強い協力意向を有することが分かる。

## (2) 尺度の信頼性

複数の質問項目から構成される尺度の内的整合性を検証するために、歴史資産の熟知度と過去住民との共通性、歴史資産の社会的価値、地域コミットメント、地域活動に対する協力意向の尺度について、地域ごとに信頼性係数(Cronbach's  $\alpha$ )を算出した。一般的に、 $\alpha$ 係数は.80が内的整合性の判断規準とされるが、両地域の全ての尺度は.80以上の $\alpha$ 係数を示したことから(表-1)、本稿の尺度はどちらの地域の回答者からも一様に理解されていることが分かる。

## (3) 地域コミットメントと協力意向の形成機構

歴史資産に対する熟知度の地域コミットメント形成と協力促進の心理機構を検証するために、回答者を歴史資産地域と新興住宅地域に分けて、多母集団同時分析を行った。仮説に基づく理論モデルに従って分析を行ったところ(図-1、図-2)、全ての因果係数が有意で、適

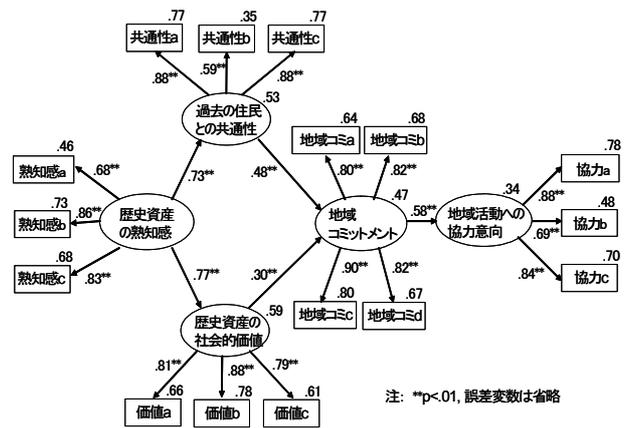


図-1 歴史資産地域住民の地域コミットメント形成と協力の促進機構

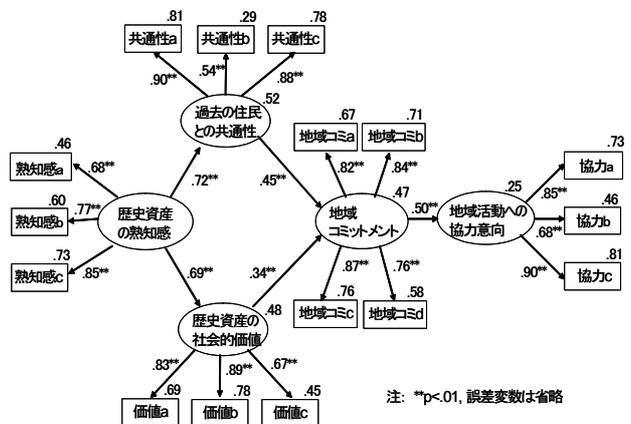


図-2 新興住宅地域住民の地域コミットメント形成と協力の促進機構

合度も十分に高かった( $\chi^2 = 718.69, p < .001, GFI = .906, CFI = .938$ )。従って、理論モデルを構築する全ての仮説(仮説1~5)が支持された。また、線形仮説の検定を用いて因果係数の群間差を検定したところ、有意差が見られなかったことから、このモデルは両地域に共通したものであると言える。

この分野の研究では、しばしば地域コミットメントの形成要因として居住年数が挙げられてきた<sup>15)</sup>。居住年数の長い人ほど、地域の歴史資産に関わる機会が多く、歴史資産に関する知識も多いことから、過去住民との共通性や歴史資産の価値についてよく理解しており、地域コミットメントや協力意向も強いと推測することは合理的である。従って、本研究で測定した全ての変数に対して居住年数が影響を与えている可能性は否定できない。

そこで、こうしたcommon method variance<sup>16)</sup>を統制した上で、モデルの妥当性を検証する必要があることから、我々は理論モデル内に「居住年数」を加え、これが全ての潜在変数に対して効果を持つと仮定して分析を行った。

その結果、両群とも居住年数の効果は、歴史資産の熟知度（歴史資産地域の因果係数：.14，新興住宅地域の因果係数：.30）と地域コミットメント（歴史資産地域の因果係数：.13，新興住宅地域の因果係数：.11）に対して有意で、この追加モデルの適合度も良好だった（ $\chi^2 = 801.14$ ,  $p < .001$ ,  $GFI = .901$ ,  $CFI = .932$ ）。重要な点は、居住年数を追加しても、他の変数間の因果関係は我々の理論モデルとまったく同じだったことである。このことは、居住年数の効果を統制しても、我々のモデルは十分な妥当性があることを示している。

#### （4）歴史資産に対する認識や地域コミットメント、協力意向の地域差

歴史資産の熟知度と過去住民に対する共通性の感覚、歴史資産の社会的価値評価、地域コミットメント、地域活動に対する協力意向の地域差を検証するために、t検定を行った。その際には、全ての尺度について各項目の相加平均を算出し、合成変数を作成した（表-2）。分析の結果、歴史資産の熟知度（ $t(843) = 15.34$ ,  $p < .01$ ）と過去住民に対する共通性（ $t(843) = 10.12$ ,  $p < .01$ ）、歴史資産の社会的価値（ $t(843) = 17.02$ ,  $p < .01$ ）、地域コミットメント（ $t(812.46) = 7.69$ ,  $p < .01$ ）、地域活動に対する協力意向（ $t(818.20) = 3.18$ ,  $p < .01$ ）について、歴史資産地域住民の評定値が新興住宅地域住民のそれに比べて有意に高いことが示された。従って、歴史資産が多い地域の住民は、歴史資産に関する知識が多く、それに伴い、過去住民に対する共通性の感覚や歴史資産の社会的価値に対する評価、地域コミットメント、地域活動に対する協力意向も強いことが分かる。以上より、仮説6も支持された。

### 5. 考察

#### （1）歴史資産に対する認識の地域コミットメント形成効果

多母集団同時分析の結果、歴史資産の熟知度が過去住民に対する共通性の感覚と歴史資産の社会的価値に対する評価を高め、その結果、地域コミットメントや地域活動に対する協力意向が強化されることが示された（図-1、図-2）。従って、地域の歴史的な成り立ちや歴史資産が置かれる魅力的な場所について理解している住民ほど、地域に対するコミットメントや地域活動に対する協力意向が強いと言える。

分析の際には、線形仮説の検定を用いて、歴史資産の熟知度が過去住民に対する共通性感覚と歴史資産の社会的価値評価に与える効果を地域ごとに比較した。歴史資産地域では、歴史資産の熟知度から過去住民に対する共通性への因果係数(.73)と歴史資産の社会的価値への因

表-2 各尺度の地域差

	歴史資産地域	新興住宅地域	t値
	平均値(SD)	平均値(SD)	
熟知度	4.14(0.93)	3.16(0.94)	15.34**
共通性	4.02(0.91)	3.39(0.90)	10.12**
社会的価値	4.65(1.00)	3.50(0.95)	17.02**
地域コミットメント	3.87(1.00)	3.36(0.90)	7.69**
協力意向	4.19(0.81)	4.02(0.74)	3.18**

\*\* $p < .01$

果係数(.77)の差は有意ではなく（ $Z = 0.83$ ,  $p = ns$ ）、新興住宅地域においても、歴史資産の熟知度から過去住民に対する共通性への因果係数(.72)と歴史資産の社会的価値への因果係数(.69)の差は有意ではなかった（ $Z = 1.14$ ,  $p = ns$ ）。従って、どちらの地域の住民も歴史資産について理解が促されることで、過去住民に対する共通性の感覚と歴史資産の社会的価値に対する評価が同等に高まることが推測される。

同様に、線形仮説の検定を用いて、過去住民に対する共通性感覚と歴史資産の社会的価値評価が地域コミットメントに与える効果を地域ごとに比較した。歴史資産地域では、過去住民に対する共通性から地域コミットメントへの因果係数(.48)は歴史資産の社会的価値から地域コミットメントへの因果係数(.30)に比べて有意に大きい（ $Z = 2.48$ ,  $p < .05$ ）、新興住宅地域では、過去住民に対する共通性から地域コミットメントへの因果係数(.45)と歴史資産の社会的価値から地域コミットメントへの因果係数(.34)の差は有意ではなかった（ $Z = 1.01$ ,  $p = ns$ ）。この結果は、過去住民に対する共通性の感覚は、歴史資産の社会的価値に対する評価と同等以上に地域コミットメントを強化しうることを示唆する。従って、他地域の観光客の関心を集める価値を持つ歴史資産を維持するだけでなく、地域住民に対して過去住民との共通性感覚を強める方策を提案することも有効な地域コミットメント強化策になると考えられる。

次に、Sani<sup>17)</sup>によれば、構成員は、時代が変化しても所属集団の本質は変化しないと認知することで、所属集団の存在を強く意識し、その結果、所属集団に対するコミットメントが強化される。具体的には、文化や伝統などが継承されていると認知することで、集団の本質が維持されていると認識され、集団コミットメントが強化される。集団が保有する歴史資産は、住民に地域の歴史的成り立ちを伝える役割を果たすことから<sup>13)</sup>、歴史資産に関わることで、この地域の文化や伝統が現代まで受け継がれているとの認知が促され、地域コミットメントが強化されると考えられる。すなわち、歴史資産の熟知度が高まることで、過去住民との共通性感覚や歴史資産の社会的価値の理解が促進されるだけでなく、居住地の文化や伝統の継続性が認知されることで地域コミットメントが強化される心理機構も作用する可能性がある。

## (2) 歴史資産を活用した地域コミットメント形成および協力行動の促進策

5 (1) で示したように、過去住民に対する共通性感覚は歴史資産の社会的価値に対する評価と同等以上に地域コミットメントを強化する。過去住民に対する共通性の感覚は、彼らと同じ場所で同じ行為をしていると認知される場合に、より強く生起することから、地域行政のホームページ等で、歴史資産に関する知識を提供するだけでなく、伝統的な祭礼などへの参加や鑑賞を促すことが有効なコミットメント形成策になると考えられる。例えば、祭りなどのイベントには、多くの住民が訪れることから、そのような催しごとを実施する際には、過去の住民たちも現在の住民たちと同じように、祭りの時節には寺社に参拝していたことを示し、また神事などの伝統的儀式を鑑賞させることで過去の住民に対する共通性の感覚が強化され、その結果、地域コミットメントや協力意向も強くなることが推測される。

これまでの地域コミットメントの強化方策は、地域ブランドを創るなどして、地域の対外的な評価を高める手法を提案するものが見られる<sup>18)</sup>。これに対して、本稿の結果から提案される方策は、莫大な投資によって地域の社会的評価や名声を高めなくとも、住民の地域コミットメントが強化可能であることを示唆するものである。

## (3) 今後の課題

本研究では、これまで多くの支持を得ている社会的アイデンティティ理論<sup>9)</sup>と自己カテゴリー化理論<sup>10)</sup>に基づく仮説を全国の複数の地域から取得した大規模データを用いて実証した。このことから、その結果には一定の普遍性が保証されていると考えられる。しかし、全国的に見れば、歴史資産の多い地域やベッドタウンのように歴史資産の少ない地域は他にも多く存在する。今後は、他の地域も対象として調査を行い、知見の妥当性を高める必要がある。

## 参考文献

- 1) 例えば、若林直子、赤坂 剛、小島隆矢、平手小太郎：住民の防災意識の構造に関する研究—その 3：地域コミュニティとの関わりを表す項目を含む因果モデル—、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.807-808, 2000.
- 2) 真鍋知子：地域愛着心の規定要因—地域生活環境評価を中心として—、人間文化研究科年報(奈良女子大学大学院人間文化研究科紀要)、Vol.12, pp.115-124, 1996.
- 3) Lewicka, M.: Ways to make people active: The role of place attachment, cultural capital, and neighborhood ties, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.25, pp.381-395, 2005.
- 4) 引地博之、青木俊明、大淵憲一：地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—、土木学会論文集, Vol. 65, No. 2, pp. 101-110, 2009.
- 5) Mazumdar, S. and Mazumdar, S.: Religion and place

- attachment: A study of sacred places, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.24, pp.385-397, 2004.
- 6) Twigger-Ross, C. L. and Uzzell, D. L.: Place and Identity Processes, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.16, pp.205-220, 1996.
- 7) Hidalgo, M. C. and Hernandez, B.: Place Attachment: Conceptual and Empirical Questions, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.21, pp.273-281, 2001.
- 8) Riger, S. and Lavrakas, P. J.: Community Ties: Patterns of Attachment and Social Interaction in Urban Neighborhoods, *American Journal of Community Psychology*, Vol.9, No.1, pp.55-66, 1981.
- 9) Tajfel, H. and Turner, J. C.: The Social Identity Theory of Intergroup Behavior, *Psychology of Intergroup Relations*, Chicago: Nelson-Hall, pp.7-24, 1986.
- 10) Hogg, A. M.: *The Social Psychology of Group Cohesiveness - From Attraction to Social Identity -*, Harvester Wheatsheaf, 1992. (邦訳：廣田君美、藤澤 等：集団凝集性の社会心理学, 北大路書房, 1994.)
- 11) Reicher, S. D.: Social Influence in the crowd: Attitudinal and Behavioral Effects of De-individuation in Conditions of High and Low Group Salience, *British Journal of Social Psychology*, Vol.23, pp.341-350, 1984.
- 12) 奥山忠裕、垣内恵美子、氏家清和：文化施設の社会的便益評価—りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）を事例として—、都市計画論文集, No. 42-2, pp. 30-41, 2007.
- 13) Lyons, E: Coping with Social Change: Processes of Social Memory in the Reconstruction of Identities, *Changing European Identities: social psychological analyses of social change*, pp. 31-40, Routledge, 1996.
- 14) McCoy, S. K. and Major, B.: Group Identification Moderates Emotional Responses to Perceived Prejudice, *Personality and Social Psychology Bulletin*, Vol.29, No. 8, pp.1005-1017, 2003.
- 15) Brown, B., Perkins, D. D. and Brown, G.: Place attachment in a revitalizing neighborhood: Individual and block levels of analysis, *Journal of Environmental Psychology*, Vol.23, pp.259-271, 2003.
- 16) Podsakoff, P. M., MacKenzie, S. B., Lee, Jeong-Yeon., and Podsakoff, N. P.: Common Method Biases in Behavioral Research: A Critical Review of the Literature and Recommended Remedies, *Journal of Applied Psychology*, Vol.88, No. 5, pp.879-903, 2003.
- 17) Sani, F., Bowe, M., Herrera, M., Manna, C., Cossa, T., Miao, X., and Zhou, Y.: Perceived collective continuity: Seeing groups as entities that move through time, *European Journal of Social psychology*, 37, pp. 1118-1134, 2007.
- 18) 細野助博：地域力をブランドに—愛着と憧れの生まれるまちづくり—、CEL, Vol.80, pp.37-39, 2007.

付記：本稿は東北大学グローバル COE プログラム・社会階層と不平等教育研究拠点においてなされた研究の成果である。